

県産化粧品、福建に輸出

県産化粧品を中国に輸出するくに企画の国吉富貴子代表社員（中央）と上海尚肌貿易有限公司の何娟代表取締役（右）、沖縄公庫の當間直治氏＝9日、沖縄公庫



くに企画(与那原) 自然素材を活用

貿易会社くに企画(与那原町、国吉富貴子代表社員)は今夏から、ポイントピュール(久米島町、大道敦社長)の県産素材を活用した化粧品「Ryuspa(リュウспа)」を中国・福建省に輸出する。同省でドラッグストアを展開する地元企業と契約し、7月にも販売を開始する。沖縄振興開発金融公庫(川上好久理事長)は9日、くに企画に海外展開資金1千万円を融資した。同日、那覇市の同公庫で会見を開いた、くに企画の国吉

泰士業務執行社員は「自然素材を活用した県産化粧品には中国で売れる商品がたくさんある。県産品の中国市場展開に貢献したい」と話した。

中国に化粧品を輸出する際には、商品ごとに中国・国家食品薬品监督管理局の輸入許可を得る必要がある。くに企画によると、県内企業が県産化粧品の輸入許可を得るのは県内初の事例という。

リュウспаはクチャヤ月桃、アセロラ、ハイビスカスなど県産素材を使用したオリジナルブランド。くに企画は中国の現地法人・上海尚肌貿易有限公司を通して、洗顔やローション、パ

ックなど計7種類の商品を販売する。初年度の売り上げは2千万円を目指す。

県産化粧品 中国初輸出へ

久米島ブランドの7商品



中国・福建省に県産化粧品の輸出事業を始める上海尚肌貿易有限公司の何代表取締役(左)、くに企画の國吉代表社員(中央)、沖縄振興開発金融公庫の當間直治課長(右)、那覇市・同公庫

沖縄公庫 くに企画に1000万円融資

貿易業の「くに企画」(与那原町、國吉富貴子代表社員)は、関連会社で中国の現地法人・上海尚肌貿易有限公司(上海市、何娟代表取締役)を経由し、福建省に県産化粧品の輸出を始める。上海尚肌貿易が中国の食品薬品監督管理局から許可を取得。7月から福建省のドラッグストアで、ポイントピュール(久米島町、大道敦社長)の独自ブランド「Ryuspa」の7商品を展開する。県内企業・関連企業が連携し、県産化粧品を中国に輸出するのは初めてという。沖縄振興開発金融公庫は9日、くに企画に対し、1千万円を融資したと発表した。

上海尚肌貿易の何代表取締役は福建省出身で、くに企画の國吉泰土業務執行社員の妻。両社は2013年ごろから、県産化粧品の輸出事業を構想し、品質や生産能力、価格などを検討し、ポイントピュールと契約した。

中国では商品管理・販売の責任を明確化するため、化粧品の輸入は現地法人にしか許可を出さない。上海尚肌貿易は13年に許可を申請。16年2月までに化粧水や美容液など7商品の許可を取得し、「責任業者」に選定された。

福建省で十数店舗を展開するドラッグストア「時尚女友」に商品を卸す。店頭価格は3千〜5千円台を見込み、くに企画の売上高は年間約2千万円を想定。國吉代表社員は「今後、化粧品以外の県産品も取り扱いたい。中国での許可取得のノウハウを含めて、県内企業と共有していきたい」と話している。